

航空安全実施計画(NASP)の概要(案)

はじめに

航空安全へのコミットメント

第1章 序文

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 背景 2. 構成 3. 定義 | <ul style="list-style-type: none"> 4. NASPとSSPの関係
NASPは、「航空安全プログラム」の一部を補完するものであること 等 5. NASP策定、実施及びモニタリングに係る責任
航空安全当局が、NASPの策定し、実施及びモニタリングの責任を担うこと 等 |
|---|--|

第2章 目的

特定した運航上・組織上の安全課題に対して、Goal、Target、Indicator及びSEIを設定し戦略的に除去又は低減することを目的とする。

第3章 運航上の課題

- ・ リスクの高い事項(National high-risk categories(N-HRCs))及びその他運航上の課題(Other safety risk)に分類し、以下の通り特定

【N-HRCs】

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ① 滑走路誤進入(RI) | ④ 飛行中の制御不能(LOC-I) |
| ② 滑走路逸脱(RE) | ⑤ 空中衝突(MAC) |
| ③ 制御飛行中の地表との衝突(CFIT) | |

【その他運航上の課題】

- | |
|-----------------------------------|
| ① 乱気流遭遇(搭乗者の死傷事案に限る。)(TURB) |
| ② 離着陸時の滑走路との異常な接触(ARC) |
| ③ エンジン以外の航空機システム等の故障又は誤作動(SCF-NP) |

- ・ これらに対して、Goal、Target及びIndicatorを設定

第4章 組織上の課題

- ・ 我が国の現状の安全監視活動状況の分析に基づき、次の4つの組織上の課題を特定

- | | | | |
|------------|-------------|------------------------|---------------------|
| ①安全監督能力の強化 | ②SSPの効果的な実施 | ③ICAO及び諸外国との安全に係る問題の共有 | ④NASPの効果的な実行とSSPの改善 |
|------------|-------------|------------------------|---------------------|

- ・ これらに対して、Goal、Target及びIndicatorを設定

第5章 モニタリング

設定した目標達成に向けて実施状況を定期的に評価し、少なくとも3年ごとに本計画を見直す。

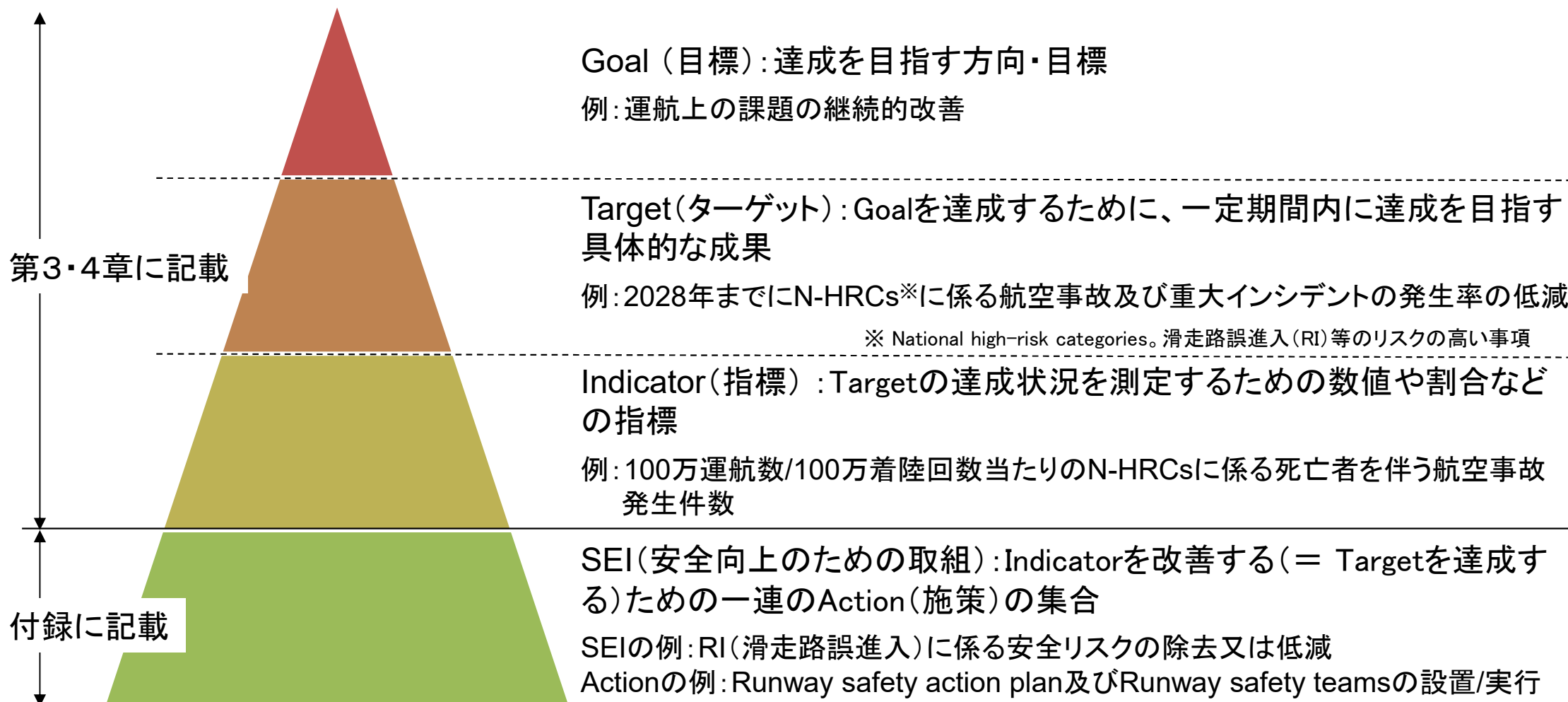
付録

運航上の課題及び組織上の課題に係る具体の取組を含む SEI(安全向上のための取組)・Action(施策)を規定

NASPにおける課題設定等の構造

- NASPにおいては、運航上・組織上の課題について、ICAOマニュアルやGASP(世界航空安全計画)に準拠して特定することが求められる。
- 具体的には、特定された課題に対しGoal(目標)を設定し、それぞれに対して、Target(ターゲット)とIndicator(指標)等を設定する。

課題に係る各項目の構造



NASPに設定したGoal, Target及びIndicator

Goal	Target	Indicator
1. 運航上の課題の継続的改善	1.1 2028年までにN-HRCsに係る航空事故及び重大インシデントの発生率の低減	1.1.1 100万運航数/100万着陸回数当たりのN-HRCsに係る死亡者を伴う航空事故発生件数 1.1.2 100万運航数/100万着陸回数当たりのN-HRCsに係る航空事故発生件数 1.1.3 100万運航数/100万着陸回数当たりのN-HRCsに係る重大インシデント発生件数
	1.2 2028年までにother safety riskに係る航空事故及び重大インシデントの発生率の低減	1.2.1 100万運航数当たりのother safety riskに係る死亡者を伴う航空事故発生件数 1.2.2 100万運航数当たりのother safety riskに係る航空事故発生件数 1.2.3 100万運航数当たりのother safety riskに係る重大インシデント発生件数
2. 安全監督能力の強化	2.1 リスクベース監視の導入に向けた安全監督体制の実現	2.1.1 安全リスク評価の仕組みを整えた分野の数
	2.2 当局職員の安全監督能力の拡充	2.2.1 リスクベース監視の導入に向け職員の能力向上を図った分野の数

Goal	Target	Indicator
3. SSPの効果的な実施	3.1 安全対策高度化システムの構築によるデータに基づくハザードの特定、リスク管理、安全パフォーマンス評価の拡充	3.1.1 リスク低減策として講じた新たな国の取組（通達改正、ガイドライン発行等）の数
	3.2 安全啓発活動等を通じた安全の推進に積極的な安全文化の醸成と安全情報の共有の促進	3.2.1 分野別の自発報告の件数 3.2.2 安全文化の醸成と安全情報の共有の促進を目的とした分野毎の意見交換機会の数
4. ICAO 及び 諸外国との安全に係る問題の共有	4.1 SSPのプロセスで特定された安全に係る問題を国内や世界に展開	4.1.1 航空安全当局がリスク低減につながる安全性向上のために国内に紹介した取組が、航空活動関係者の新たな取組につながった事例の有無 4.1.2 ICAO等の国際的な会合において、航空安全当局がリスク低減につながる安全性向上のために行った提案が、新たな取組につながった事例の有無
5. NASPの効果的な実行とSSPの改善	5.1 NASPによる安全の向上を実現するための業界との協力強化とそれによるSSPの改善	5.1.1 業務提供者からの提案等によるSSP及びNASPの取組における改善の有無

付録 運航上の課題に係る具体の取組(Action)

Goal 1: 運航上の課題の継続的改善

Target 1.1 : 2028年までにN-HRCsに係る航空事故及び重大インシデント発生率の低減

Action:

①滑走路誤進入(RI)

- Runway safety action plan及びRunway safety teamsの設置/実行
- 操縦士の状況認識を促進する機体側の技術開発状況調査
- 飛行場のHot spotを特定し、AIPに掲載されたHot spotに関連するハザード除去又はリスク低減戦略の策定
- 小型航空機の使用頻度が高い空港に係る地上走行動画作成
- 滑走路状態表示灯(RWSL)の導入拡大(整備着手)励行
- 滑走路誤進入検知システムや航空交通管理高度化に向けた調査励行
- Crew Resource Management (CRM) 訓練の義務化

②滑走路逸脱(RE)

- Runway safety action plan及びRunway safety teamsの設置
- 滑走路端安全区域(Runway End Safety Area)を設置できない場合におけるアレスティングシステムの設置励行
- CRM訓練の義務化

④飛行中における操縦不能(LOC-I)

- Upset Prevention and Recovery Training (UPRT) 規制の導入・定着
- 航空局が開催する安全運航セミナー等における、安全啓発動画、リーフレット等の周知

③制御飛行中の地表との衝突(CFIT)

- CRM訓練の義務化

⑤空中衝突(MAC)

- CPDLCのような通信システムの効果的な利用、機能拡大励行
- CRM訓練の義務化

Target 1.2 : 2028年までにNational other safety riskに係る航空事故及び重大インシデント発生率の低減

Action:

①乱気流遭遇(TURB)

- ベルト着用サイン消灯中の座席ベルト常時着用及び離席中の突然の揺れに対する負傷防止対策に関する搭乗旅客等への周知・啓発活動の実施
- 運航乗務員と客室乗務員との乱気流による揺れに係る情報の共有や、機体動揺時の被害軽減対策に関する啓発活動(指導)の実施
- 乱気流発生に係る気象情報の継続的な提供

②離着陸時の滑走路への異常な接触(ARC)

- 航空局が開催する安全運航セミナー等において、最近発生したARC事案(事故・重大インシデント)の紹介、注意喚起の実施
- CRM訓練の義務化

③エンジン以外の航空機システム等の故障又は誤作動(SCF-NP)

- 設計製造に起因する不安全事故を的確に是正するために、国内の型式証明保有者等と協力して不安全事故の収集・分析・是正等のプロセスを明確化するためのガイドラインの作成

付録 組織上の課題に係る具体の取組(Action)

Goal 2: 安全監督能力の強化

Target 2.1: リスクベース監視の導入に向けた安全監督体制の実現

Action:

- リスクベース監視の導入に向けた安全リスクプロファイルに必要な情報収集の仕組みの構築
- 安全リスクプロファイルによるリスク曝露状況を把握する仕組み構築
- リスク曝露状況に応じて監視の範囲・頻度を調整する仕組み構築

Target 2.2: 当局職員の安全監督能力の拡充

Action:

- リスクベース監視導入に向けた訓練体制の拡充の検討
- 研修記録を作成・保持するための手順及び要件の作成
- 新規制度(リスクベース監視等)導入等に合わせた専門研修の実施
- リスクベース監視の訓練内容改善事項の特定

Goal 4: ICAO及び諸外国との安全に係る問題の共有

Target 4.1: SSPのプロセスで特定された安全に係る問題を世界や地域に展開

Action:

- ICAO等が提供する安全情報の収集、国内関係者への発信
- 我が国で収集・検討された優良事例について、ICAO等への発信

Goal 3: SSPの効果的な実施

Target 3.1: 安全対策高度化システムの構築によるデータに基づくハザードの特定、リスク管理、安全パフォーマンス評価の拡充

Action:

- 安全対策高度化システム構築によるデータ収集項目の拡充
- 安全対策高度化システムで収集されたデータも活用した、国レベルの安全リスク管理を向上させる手法拡充

Target 3.2: 安全啓発活動等を通じた安全文化の醸成と安全情報の共有の促進

Action:

- 自発報告を踏まえた改善取組紹介等を通じた、自発報告の促進
- 航空業界全体での安全文化醸成の取組を推進するために、安全文化に関する勉強会等の実施
- 安全監督活動により把握した安全意識向上に資する情報の発信

Goal 5: NASPの効果的な実行とSSPの改善

Target 5.1: NASPによる安全の向上を実現するための業界との協力強化とそれによるSSPの改善

Action:

- 国と業務提供者のSPIの方向性の整合確認、課題の継続的改善
- 航空安全プログラム委員会における、NASPの取組状況の確認、必要に応じた改善、業務提供者への会議結果の共有等
- 官民連携の場の設置及び実施、必要に応じた運営の改善